

第 28 回欧州経営・ビジネス経済学会国際学会報告書

商学部専任教授 村田 潔

第 28 回欧州経営・ビジネス経済学会国際学会 (XXVIII International Conference of the European Academy of Management and Business Economics (AEDEM)) が、2019 年 9 月 2 日 (月)～4 日 (水) の 3 日間にわたって、駿河台キャンパスのグローバルホールならびにアカデミーコモン教室を会場に、“Management in a Smart Society: Business and Technological Challenges”を統一テーマとして開催された。欧州経営・ビジネス経済学会 (AEDEM) は 1982 年に創設されたスペインを拠点とする大規模な学会であり、同学会の国際学会としては初めてのアジア圏での開催となる本国際学会を、明治大学国際連携本部国際学会・シンポジウム開催助成を受け、明治大学ビジネス情報倫理研究所と AEDEM が共催する形で実現する運びとなった。

3 日間で 100 名を超える研究者が日本、スペインを中心とする欧州諸国、米国ならびにラテンアメリカ諸国から出席し、盛況な学会となった。9 月 2 日 (月) には開会式とレセプションがアカデミーコモン 2 階の A1-A3 会議室で行われ、明治大学を代表して大六野耕作副学長 (政治経済学部専任教授) がウェルカムスピーチを行い、和やかな雰囲気での国際学会のスタートを切ることができた。翌 3 日 (火) には、統一セッションにおいて水野誠商学部専任教授と Mario Arias-Oliva 教授 (スペイン・Rovira i Virgili University) による 2 件の基調講演が行われ、またパラレルセッションでは 35 件の一般研究報告が実施された。水野教授の基調講演は、“Creativity, Culture and Consumer Behavior in Japan: A Marketer’s Perspective”と題し、具体的なデータを示しつつ日本における消費者行動の特性について論じるものであり、本国際学会の冒頭を飾るにふさわしい非常に充実した内容で、大変好評を博した。

最終日の 4 日 (水) には、午前中に行われたパラレルセッションで 35 件の一般研究報告が行われ、午後の統一セッションにおいては、Mario Arias-Oliva 教授、折戸洋子准教授 (愛媛大学)、Camilo Prado Román 教授 (スペイン・Rey Juan Carlos University 大学)、Shalini Kesar 准教授 (米国・Southern Utah University) と村田による、統一テーマに関する基調講演パネルが実施された。各人が統一テーマについての考えを述べた後で、フロアの聴衆も含めた活発な質疑応答が行われ、国際会議の掉尾を飾る実り多い討論を行うことができた。当日午後 8 時 30 分より行われたカンファレンスディナーにおいては、琴や三味線・尺八の生演奏が行われる中で和食を楽しみ、また本国際会議のベストペーパーが発表され、3 日間の充実した国際会議を締めくくることができた。

末筆ながら、この場を借りて本国際会議の開催に当たってご協力をいただいたすべての方に心よりお礼を申し上げます。多くの方々の支えなくして本国際会議を成功に導くことはできませんでした。どうもありがとうございました。